

**第7回 京奈和自動車道（大和北道路）
環境影響評価検討専門部会（現地視察）
〔視察後の委員からの主なコメント〕**

1. 開催日時

平成18年 6月13日（火）13：30～17：30

2. 開催場所

奈良県経済倶楽部 大会議室
現地（奈良市、大和郡山市内他）

3. 出席者

池田有光、今井範子、大西有三、小船武司、○齋藤峻彦、瀬林伝、高田研一、
西田正憲、水野正好 <敬称略、五十音順、○印は部会長>
（今井委員は6月9日に視察）

4. 議事

大和北道路のルート・構造や沿道状況等を把握し、今後の環境影響評価準備書の審議の参考とするため、現地視察を行った。

（視察ルート）：近鉄奈良駅→木津 I C→第二阪奈道路 中央立坑→佐保川（大和郡山市）→大和郡山 J C T→京奈和自動車道（大和道路）→西九条佐保線→近鉄奈良駅

※下線部の箇所では、現地での視察を行った。

現地視察後、委員から提出された主な意見は下記のとおり。

《**全体的な意見**》

○全体について

- ・ 具体的なインター等の計画が出来た時点での現地視察は大変意義があった。とりわけ、換気塔及び坑口付近には配慮すべきである。

《**環境影響に関する意見**》

○騒音について

- ・ 京奈和自動車道（大和道路）に設置されている防音壁の効果等のデータを活用できれば望ましい。

○動物について

- ・ 評価対象地域や生息鳥類について熟知しているつもりであり、現地視察の結果も今まで言っていることと変わりはない。つまり、一般鳥類については、生息エリア、ハンティングエリアの消失、改変はごくわずかであり、生息種のいずれかの存続にダメージを与えるようなことはないと思われる。
- ・ 今までの調査や知見から判断すれば、オオタカについては、営巣林の北方、西北方の既に改変が進んでいるハンティングエリアにも適応しており、R24号以西へも行動し、時には南部市街地まで飛来している。直近のR24号がすでにより生息にダメージを与えるといったことは無いと思われる。（ただし、繁殖期に注意が必要なことは以前から言っているとおりである。）
なお、今後新しい事実がわかれば、検討や対策が必要である。

○景観について

- ・ 今回、佐保川散策路及びその周辺をつぶさに視察したが、眺望点（視点場）の設定は、観光拠点のみならず、散策路を設定するなど、市民の視点に配慮されているものと思われる。

- ・ 公園、スポーツ施設等、市民の視点に立脚した眺望点（視点場）を選定していると思われる。
- ・ 景観資源（視対象）の考え方については、法令でオーソライズされているものを対象にしているが、今回概観して、奈良らしい景観を形成する自然景観・歴史景観が選ばれ、概ね妥当なところと思われる。
- ・ 今回、佐保川散策路において、実景とフォトモンタージュを比較したが、フォトモンタージュの予測手法は概ね妥当だと思う。
可視領域における改変状況を把握し、フォトモンタージュも含め、景観工学の知見を取り入れて解析しているが、現在行い得るアセスとしては、努力していると思われる。
- ・ 今回、改めてルートを確認したが、景観に関する影響予測については、基本的に、トンネル案＋高架案を採用していることから、致命的な問題はないと思う。
（ただし、今回のアセス対象外の奈良IC取り付け高架道は、住居に近く、慎重な検討が必要だと思われる。）
- ・ 景観について影響が想定される場所として、6ヶ所が抽出されたが、見え方や周辺の状況からして、影響は軽微と考える。
- ・ 高架道路について、大和道路は、実際走ってみれたことは良かった。
高架道路の景観性についてもほぼ問題がないように思われる。

○文化財について

- ・ トンネル坑口部、高架部分、盛土部分、換気塔部も平城京城等の遺跡に含まれるため、事前に発掘調査を実施し、重要な遺構・建物の発見があれば現状の保存をはかれるよう十分考慮されたい。そのためにも早急に関係機関（文化庁、奈良文化財研究所、県教委、市教委）と調整されることが望ましい。

《各箇所についての意見》

○奈良北IC（仮称）周辺について

- ・ 日照障害について、高架構造や換気塔による近隣住居への影響は、検討結果から問題はないと考えられる。
ただし、奈良北IC付近の新築中のマンションへの影響については、確認しておく必要がある。
- ・ 新たに高架道路ができることによる沿道住居への圧迫感や住居からの見通しなどへの影響についても考慮する必要がある。
また、生活環境面では、住居のバルコニー等へ排気ガスによるほこりなどの影響が考えられる。

○北側換気塔について

- ・ 計画地の北側には住宅地が広がっていることを踏まえ、周辺環境への影響についての検討が必要である。
- ・ 北側の換気塔については、高さを抑え、よく配慮されていると思われる。
- ・ 高さ8mで計画され、周囲も雑木林であり、景観面から問題はないと考えられる。
- ・ 周辺植生への影響はそれほど小さくなく、景観的にみても問題がないと思われる。
- ・ 北側換気塔は背後が高く、R24号に面した側を樹林にすれば完全に遮蔽でき

ると思われる。

○奈良 I C (仮称) 周辺について

- 掘り割り構造になるため、地下水については、周辺の浅いところの地下水流動に影響を与える可能性が残っている。したがって、この周辺地区での地下水利用状況や地下水流動状況の現状を把握しておいて、今後に備えるのがいいのではないかと思われる。

○南側換気塔について

- 病院は換気塔の北側にあるので、南風の場合の大気質の影響を確認しておく必要がある。
- 南側の換気塔については、周辺の景観の状況が、病院、ゴルフ練習場、住宅、大型店舗、工場、ホテル、送電線鉄塔などがあって良好な景観とは言えず、ある程度の工作物もやむを得ないと思われる。
景観について考える場合、どのような景観を守るのかについて検討しなければならないが、周辺の景観ゾーン・景観軸は郊外型の無秩序な景観と典型的ロードサイドショップ景観であり、残念ながら良好な田園景観とは言えない。
ただし、換気塔は巨大工作物なので、少しでも影響を少なくする工夫が、デザイン段階、事業実施段階で、必要だと思う。工作物や建築物については、どのデザインが良いという定説の理論はない。一般的には、工作物の色調をできる限り抑えたり、建築物に化粧の庇を付けたり、様々な工夫がなされている。
ごく自然に、目立たないように、表面に陰影を付けたり、色調のトーンを落としたりすることが重要だと思うが、この種の問題は、要は合意形成が大切であって、適切な時期に、しかるべき所で議論すればよいと思われる。
- 現地視察でもっとも問題となるのは、南口についてであり、奈良市南西部に位置するこのロケーションでは、景観的にみて、特段の価値を有する場からは離れており、すぐれた景観を阻害することはないと確認された。
ただし、今後の奈良県経済にとって、あるいはわが国の歴史環境資源の場としての奈良県という位置を考慮したとき、新たに行政が主導してつくる巨大な人工構造物と周辺施設帯のあり方については、歴史に耐える景観の創造という視点が重要であり、ここでしっかりと良質の景観を生み出していくことが将来の景観形成にとって大きな働きを及ぼすと思われる。
- 換気塔については、説明をうけた範囲については理解することができた。
ただ、その形態・デザイン等については周辺地域の将来を見通して適切なものにする必要がある。
なお、換気塔周辺に高層構造物が設置され、後に影響をうけることのないよう配慮することが望ましい。
- 問題となっている換気塔については、現時点では、景観、構造等いろいろな点からさまざまな意見があっただけいい。奈良県の立場からすると、奈良のグランドデザインの中で、この換気塔をどのように見るのかを検討した上で、県としての姿勢を示す必要がある。
高さや大きさの構造については、排気の高さやその広がりなど科学的知見を十分検証していけば、根拠に基づいた姿になっていくと思われる。
- 南側換気塔は高さが30mであり、周囲の土地の余裕もないので遮蔽は不可能と思われる。したがってデザイン、色彩等について十分な検討が必要である。